

令和4年度 学校関係者評価結果

1. 日時: 令和5年3月10日(金) 15:00～16:00
2. 方法: web会議および評価表に基づく評価
3. 学校関係者評価委員
 - 【高等学校関係者】 高知県立高知西高等学校 校長
 - 【地元企業関係者】 公益社団法人高知県看護協会 会長
 - 【看護管理者】 医療法人須藤会土佐病院 看護部長
 - 【教育に関する有識者】 高知県立高知江の口特別支援学校国立高知病院分校 教頭
 - 【卒業生】 同窓会会長(NHO高知病院 看護師長)
4. NHO高知病院附属看護学校 出席者
 - 学校長 事務長 教育主事 教員2名
5. 評価基準: 4段階評価および総評自由記載
6. 評価対象: 令和4年度 学校運営方針の取り組み実施状況
7. 事前送付資料: 1) 学校関係者評価委員会規程 2) 令和4年度 学校運営方針 自己評価表
 3) 令和4年度 学校運営方針 評価表 4) 参考資料 学校案内(2022年版)
8. 評価結果
 - 【評価基準】
 - 4: 大いに達成できている 3: 達成できている 2: あまり達成できていない 1: 全く達成できていない

1. 質の高い教育実践のために、教員の教育実践能力の向上を図る。		自己評価	他者評価
	1) 教材研究、授業案の検討を行ったうえで研究授業(6回/年)が実践できる。	3	3
	2) 研究テーマに基づく研究計画書の提出と成果(2題/年)の発表	2	2
	3) テキストも活用した教育内容と教育方法の充実	3	3
	4) コロナ禍に対応できるオンラインを用いた臨地実習内容の検討	3	3
総評	教材研究、授業案の検討を十分に行ったうえで6回の研究授業を実践されており、学生評価、教員評価も高い水準と判断した。授業内容の向上のため研究授業等、熱心に取り組んでいる。研究授業を自己・他者評価することで双方の学びにつながっている。高知県内の他校の教員にも公開し学びを共有する機会になればいいのではないかと考える。研究発表については来年度の実践に期待している。テキストの活用に課題があることに着目し、改善方法を検討して、学習の充実につなげられており成果をあげている。テキストを読まず配布資料に頼る学生の傾向を捉え、テキストの活用について具体的な指導がされている。コロナ禍でオンラインを効果的に活用できている。今後も対面のメリットも活かしつつ、オンラインを効果的に活用することが重要である。		
2. 職員の学校経営に対する意識を高め、円滑で安定した学校運営を図る。		自己評価	他者評価
	1) 協働する職場づくり(業務内容の調整、残っている教員への言葉がけ)	3	3
	2) 節電・節約により経費の削減	2	2
	3) 実習室の整備とモデル等の教材(消耗品含む)の適切な使用と点検管理の実施	3	3
	4) 新刊図書の充実と不明図書をなくす	2	3
	5) 年次休暇の計画的な取得でリフレッシュを促し、教育活動に還元する	3	3
	6) 新たな休学者(令和4年4月1日3名休学中)、退学者をなくす。	1	2
総評	様々な対応により勤務時間が超過したようだが、コロナ対応がある中、新カリキュラムの検討で大変な1年だったと想像できる。光熱費をはじめ、様々なものが高騰している現状から、学生にも節電、物を大事に使うなど、経済的観念を育成する教育の機会にするといいのではないかと考える。新刊図書については充実を図り、不明図書なく運用できている。新カリキュラムへの対応、コロナ対応、個々の学生に応じた教育的関わりなど多忙な中、限られた教職員で工夫した取り組みが出来ている。仕事にメリハリをつけ目的意識をしっかりと持って取り組んだことで高ストレスとはならなかったと考える。学生が休学や退学を選択することは、諸々事情、要因があり学校や教育によりゼロにすることは困難と考えられる。		

3. 国立病院機構及び地域社会に貢献できる人材の育成と人材の活用を行う		自己評価	他者評価
	1) ICTを活用した学校PR、募集活動による学生獲得	3	3
	2) ホームページの即時更新、魅力ある情報発信の工夫	3	3
	3) 母院への就職率:30%、機構への就職率:50%、県内就職率:50%以上	2	2
	4) 国家試験対策の強化、合格水準の向上(国家試験合格率100%)	3	3
	5) 教員各自の専門性を活かした国立病院機構及び地域社会への貢献	3	3
総評	前年度よりも割合が上昇するとともに機構への就職率、県内就職率は目標も達成できている。国家試験対策を強化し、今年度は全員合格が見込まれている。国家試験対策は、1年次から計画的に取り組まれており、3年次は小グループ、個別指導、補講を実施するなど学生の状況に応じた指導が出来ており、国家試験の高い合格率を維持している。国家試験対策の強化は、かなり良い合格率が期待される。学生募集活動に積極的に参加し、ホームページを活用した情報発信にも意欲的であった。コロナ禍でもオンラインを活用するなど、様々な機会を捉えた情報発信が出来ている。教員がその専門性を活かし国立病院や看護協会などで研修を担当するなど、県内の看護職の質の向上に貢献している。このような機会を通して教員も学ぶ機会になっていると考えられる。今後も継続していくことを期待する。		
4. 学生の主体性を尊重し、自立した学生を育てる。		自己評価	他者評価
	1) 共学(学生同士で教え合い学び合う)を目指し、学生間交流の推進と学生QC活動の継続。	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・QC活動と委員会管轄の整理と、無理のない活動時間の確保 ・主体的な学生自治活動の支援 ・主体性のない学生への支援 		
	2) 看護学生としての自覚を持った情報管理ができるよう情報モラル教育の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次からの段階的教育 ・インシデント分析の学生への提示と内容共有 	3	3
	3) 学生の主体的な健康管理行動の支援	3	3
	4) 学生との対話を大切にされた教育的なヒューマンケアリングの実践	3	3
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナに関連したメンタルサポート 		
総評	コロナ禍においても感染管理を行い、地域との交流も図った学生祭を企画、実施している。また、学生主体のQC活動も積極的に行われていると思われる。授業体系として、学生同士で学び合う共学がさらに進んだように感じる。学生交流だけでなく学生QC活動も活発に行われるようになり、学生の主体的な意識の向上につながったように思われる。感染対策をとったうえで学生の交流の場をつくる工夫が出来ている。3学年で協力して取り組む体験を通して学生の学びや達成感につながっている。コロナ蔓延の中でもどのようにすれば活動できるのか考える機会にもなったと考える。また、コロナの感染対策を通じて、主体的な自己の健康管理に繋げるなど、看護専門職としての根拠ある行動を考える機会にできている。		
5. 第5次カリキュラムの運用ができる。		自己評価	他者評価
	1) 2年次、3年次習得科目の評価計画・評価方法の検討	2	3
	2) 新設科目の授業計画・指導案(演習科目)の再検討	3	3
	3) 1年次のカリキュラム評価	2	3
	4) 臨地実習時間の検討、方法論の検討	3	3
総評	カリキュラムの運用が十分にできていないと評価したのは、教員の力量不足なのか、カリキュラム自体に問題があるのか判断できない。学生の評価と教員の評価に乖離があるとしても課題を明確にし「2」の評価の改善を期待する。新カリキュラム導入に向け評価計画や授業計画で苦労していることが伺える。自己評価は厳しい実態を思わせるが新たな挑戦にも取り組もうとしており実践しながら改善を加えていって欲しい。旧カリキュラムの教育と同時に新カリキュラムへの対応が着実に出来ている。		
6. 学生募集中止の準備		自己評価	他者評価
	1) 関係部署への報告	3	3
	2) 同窓会との連携	2	3
	3) 閉校に準備内容の整理と計画立案	2	3
総評	閉校に向けてのスケジュールを作成して、遅滞なく進められている。閉校にあたり様々な取り組みを行う必要があり、大変だと思うが進捗管理をしながら進めているようなので各種団体と密に連携をとり頑張ってもらいたい。閉校するのが残念である。3年度の閉校に向けてやるべきことが明確にされており、着実に進められている。閉校は残念であるが、看護人材の育成に大きな役割を果たしており、最後の卒業生を送り出すまで、その役割を果たしていただくことを期待している。		